

「SOUL FOOD in とやま」

富山市青年元気塾第8期生 食グループ
青島、阿保、石原、金岡、上梨、羽黒、林、渡辺

1 はじめに

みなさんは「SOUL FOOD」ということばをご存じですか？「SOUL FOOD」とは、もともと1960年代半ばアメリカ合衆国南部の奴隷制を通して生まれたアフリカ系アメリカ人の伝統料理を意味していました。ですが現在では、「その地域に特有の料理」「その地域で親しまれている郷土料理」という意味で使われています。

そして、四季折々の表情を見せ、豊かな自然に囲まれているわたしたちの故郷—富山—には、立山連峰と富山湾の約3,000mの標高差が生み出す急流のきれいな水で育った農産物、清流が流れ込む美しい富山湾で育った海産物があり、まさに富山の「Soul」の詰まった豊富な資産があります。これこそがわたしたちの富山の「SOUL FOOD」の源です。しかし、そんな魅力的な食材にいつも囲まれているため、富山に住む人々はそれを当たり前のものだと感じ、恵まれた食の環境に気付きにくくなっているのではないのでしょうか？

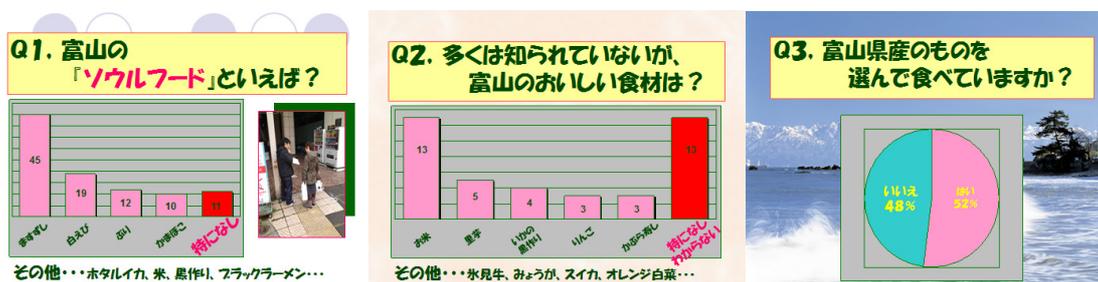
このような現状からわたしたちは「富山の食の素晴らしさ」を地元の人たちに再認識してもらい、郷土料理をはじめとする富山の食を県内外に積極的に発信し、富山を盛り上げる活動をしていきたいと考えました。



2 富山に住む人々の「食」への意識

グループのメンバーがそれぞれ持っている意見や考えだけでは「本当の現状」を把握できないと考え、「ソウルフード」という言葉の認識の確認も含めて、富山に住む人々が実際に食に対してどのような意識を持っているかを街頭アンケートというかたちで調査しました。

アンケートは年齢・出身地に加えて下記の質問で行いました。結果は以下の通りで、「ソウルフード＝伝統料理」という認識から富山のソウルフードはまずずしだと答える人が目立ちましたが、「特になし」や「富山県産の食材を意識して食べていない」という回答が多く、富山産の食に対する意識が低いということがわかりました。



このことから、富山の食を県外へ発信する前に県内の人たちに「とやまの食は誇れるもの」であることを再認識してもらえる場を提供したいと考えました。

3 イベント「SOUL FOOD in とやま」の開催

【 富山在住の人たちに富山の食の魅力を再発見してもらえるイベントを開催 】

- ① 目的：『富山の食をもっと身近に！もっと幅広く！もっと美味しく！』
 - … 身近ではあるが調理法の裾野があまり広くない食材を、郷土料理のような親しみを持てるB級グルメとして提供して新しい魅力を発見・再認識してもらう。
- ② 会場：グランドプラザ
 - … 中心市街地再開発の象徴となるグランドプラザ・総曲輪フェリオを訪れた人の流れをそこだけに留まらせず、周辺の商店街へと呼び寄せる。
- ③ ターゲット：『週末のファミリー』
 - … 家族で改めて「とやまの食」を再認識してもらい毎日の家庭料理から親しんでもらうきっかけづくり。
- ④ イベント内容
 - ・近隣の商店街をメインに、ブース形式で出店してもらう。
 - ・メニューに課題として提示する食材を用いてもらい、今までにない新しく考案したものを出品してもらう。
 - ・来場者に食べてもらったメニューの中でどれが一番よかったかを投票してもらい、コンテス

ト形式で参加店同士に競ってもらおう。

- ・イベント当日に食べることの出来なかったメニューや、もう一度食べたいと思うメニューをイベント終了後にも食べられるように参加店舗の協力の下、グルメマップを作成・配布する。

4 イベント開催により期待される効果

- ①富山初の富山産食材を用いたB級グルメイベントである。

富山の食材をメインに押し出したB級グルメイベントは今まで開催されたことがなかったため注目が集まりやすく、県外へのPRがしやすい。

- ②今まで認知度の低かった食材や加工品の新しいレシピの提案。

日頃なかなか使用されない珍しい食材に焦点を当てて課題とすることで、その食材の需要拡大に貢献できる可能性がある。

- ③出店する飲食店にとって、低コストで継続的なPRが可能。

企画立案と同時進行で、株式会社まちづくりとやまさんから協力についての前向きなご意見をいただけたため、グランドプラザ利用料などのイベント開催にかかる費用が従来のものよりも大幅に低い。そのため、出店する飲食店の負担は少なく済む。



5 おわりに

私達はこの活動を通して、富山に住む人の「食」に対する意識やその現状を知ることが出来ました。地域に根ざした特産品を使用し新たなグルメとして発信する事で、幅広い年代の方に「富山の食の魅力」を発見・再認識してもらい、地産地消や地域の商店街などの活性化につながればよいと考えています。

「食」を通じて、人と人との繋がりが出来れば笑顔も増える。富山から発信される「食」が県内だけに留まらず、今後県外や世界に広がることを切に願っています。